

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する WHO神戸センターの取り組み

WHO神戸センター 医官 茅野 龍馬

❁ はじめに

WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センター)はWHOジュネーブ本部直轄の研究センターであり、阪神淡路大震災の復興のシンボルとして1996年に設立されました。高齢化や災害対策など、地元や日本の特徴を活かした政策研究に取り組み、市民フォーラムや学会発表、論文発表などを通して、成果を還元しています。また、神戸市や兵庫県の主催する様々な委員会や会議などにも積極的に参加し、WHOの立場からの助言や情報提供を行っています。今回の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関しても、神戸市、兵庫県、そして日本国政府と連携して、地元や国の役に立つような情報発信等に取り組んでいます。KOBE健康情報局を通じて、その取り組みについて紹介したいと思います。



WHO神戸センター

HAT神戸の脇浜海岸通に震災復興のシンボルとして1996年に設立される。

ホームページ https://extranet.who.int/kobe_centre/ja

✿ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連の翻訳事業

WHOは、世界各地の感染症流行情報 (Disease Outbreak News) を公開しています。以前よりWHO神戸センターは、神戸市、兵庫県、神戸検疫所等と協力して、海外の感染症流行情報を翻訳し、日本語で発信をして参りました。翻訳したニュースは厚生労働省検疫所のホームページ「FORTH <https://www.forth.go.jp/index.html>」で閲覧することができます。今回の新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) についても、今年の初頭に中国での最初の報告があったところから情報発信に努めて参りました。

日本での症例報告があつてからは、神戸市、兵庫県、厚生労働省と協議し、WHO本部が発表する公式情報を翻訳して地元や国の関係者や一般の人に向けて共有する体制を整えて参りました。現在は、地元および全国の有志専門家や協力団体の方々、日本に事務所を有する国連機関や翻訳家と連携協力して、WHOが英語で公開する一般向け情報、関係者向け情報を翻訳し、日本語で利用できる最新情報を日々更新しています。

✿ 表1：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関する 翻訳情報を発信するWHO神戸センターの3つのウェブページ

1 WHO公式情報特設ページ

毎日更新される世界の感染状況 (各国の感染者数など) に関する情報および世界における特に重要な更新情報 (ハイライト) を日本語で発信。

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid

2 関係者向け特設ページ

行政関係者向け、保健医療従事者向けのガイダンス、マニュアル、手引きなどのうち、地元や日本に有用と思われるものを翻訳して日本語で提供。2020年6月上旬時点でおおよそ50件 (全体で100件程度) の文書が日本語で利用可能。

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid/covid-technical

3 一般向け特設ページ

個人の感染予防や職場環境整備など、一般向け公式情報を日本語で提供。インフォグラフィックス (イラスト付き情報提供文書) やYouTubeビデオなど、短時間で概要が理解しやすいものが多い。

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid/covid-public

✿ 地元行政機関の専門家会議や新聞等を通じた情報発信

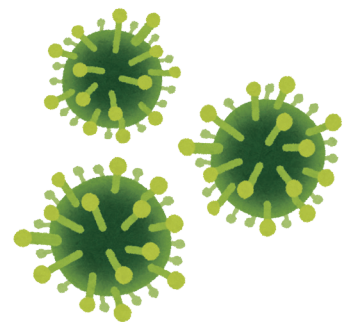
WHO神戸センターは、地元行政機関の要請に応じて、神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会や兵庫県新型コロナウイルス感染症対策協議会をはじめ、様々な機会を通じて、地元行政機関への情報提供をしています。同時に、WHOジュネーブ本部、西太平洋地域事務局と連携して、地元メディアからの照会への対応を続けています（3月19日神戸新聞記事、4月19日朝日新聞記事、4月28日神戸新聞特集記事など）。

✿ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関する新研究事業

WHO神戸センターは以前より、災害対策を含めた「災害・健康危機管理 (Health Emergency and Disaster Risk Management)」をテーマとして、全世界の専門家と協力して研究活動を行って参りました。「災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/project-details/TPRN」は、災害対策や健康危機管理に関する世界の専門家ネットワークで、WHO神戸センターが事務局を務めます。今回の新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関しても、過去の災害や健康危機対策の経験からの教訓を現在と未来の対策に活かす研究事業について、WHOジュネーブ本部および専門家ネットワークと協議し、地元の学術・研究機関と連携した研究事業、世界の学術・研究機関とも協力した研究事業について計画を進めています。

✿ おわりに

WHO神戸センターは神戸市、兵庫県をはじめとした地元機関の支援のもとで、様々な事業を行っています。もうすぐ設立から25年をむかえますが、世界の事業を地元で紹介、還元することと、地元の連携事業を全国、世界に発信、還元することの双方向の事業を通じて、今後ますますの地元貢献を行って参ります。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策は、長期的な視野と対策が必要になることが考えられますが、翻訳事業や自治体やメディアでの情報発信を通じて、地元と共に、対策に取り組んで参ります。



あなたの健康を神戸市がサポート

MY CONDITION KOBE

神戸市は、誰もが健康になれるまち健康創造都市KOBEOを目指しています。
その取り組みの一環として、市民のための健康管理アプリ
「MY CONDITION KOBE(マイコンディションコウベ)」を運用中。
今回は、お家でできる簡単エクササイズをご紹介します。



レッグタワーエクサ



ひざは90度、ももから
背中まで一直線に
なるように行います。



もも裏の鍛錬！



足をそびえ立つタワーのように、まっすぐ持ち上げることがポイント。足を広げるほど、負荷がアップ

- ①両ひざを立てて、あお向けになり、肩の力を抜いて腕をやや広げます。左脚のつま先を天井に向けて、ひざを曲げずに脚を持ち上げます。
- ②左脚のつま先を上から引っ張られるイメージで、お尻から5秒かけてゆっくり高く持ち上げます。5秒かけてもとに戻します。

1度に行う目安：左右各1回

1日に行う目標：1回

ステップ・サイドベンド

大きく1歩踏み出し、上体を真横に傾けることによって、わき腹と太ももを鍛錬

- ①両手を腰にそえてまっすぐ立ち、右脚を大きく前に踏み出します。このとき右ひざが90度になるように腰を落とします。
- ②左腕をまっすぐ上に伸ばし、左腕と上体と右側にゆっくりと傾けます。そのまま15秒保ち、もとの位置に戻します。逆側も同じように行います。

1度に行う目安：左右交互3回

1日に行う目標：1回



わき腹、太もも
の鍛錬



上体を横に傾けるときは、
前かがみになったり、後ろに
そたたりしないように注意。



健康アプリ MY CONDITION KOBEでは、
簡単に始められるエクササイズを
動画でも配信中です！



スマホで利用登録して、いますぐはじめよう。
詳細は「マイコンディションコウベ」で検索。



公益財団法人神戸医療産業都市推進機構クラスター推進センター
ヘルスケアサービス開発支援事業事務局

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目5番2号 神戸キメックセンタービル7F
電話：078-306-0719 E-mail: healthcare@fbri.org
<https://www.fbri-kobe.org/cluster/healthcare/supporter.php>

